

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年2月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年2月8日～2月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より1.6ポイント悪化の▲47.6となった。

2017年9月以来42ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲49.2、当月と比べ1.6ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2020年 9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	先行き見通し 2021年3月～ 2021年5月
業況	▲51.6	▲44.8	▲42.3	▲41.0	▲46.0	▲47.6	▲49.2
売上	▲50.0	▲43.2	▲38.5	▲45.1	▲44.5	▲48.4	▲53.3
採算	▲47.0	▲40.8	▲35.3	▲37.7	▲43.7	▲43.5	▲46.8
仕入単価	▲16.1	▲12.0	▲17.2	▲14.8	▲16.6	▲25.0	▲29.8
販売単価	▲17.7	▲12.8	▲16.4	▲10.7	▲16.7	▲17.0	▲12.9
従業員	22.3	21.6	19.7	13.9	8.7	14.5	13.7
資金繰り	▲21.5	▲18.4	▲23.0	▲19.7	▲19.0	▲23.4	▲28.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	先行き見通し 2021年3月～ 2021年5月
建設	▲23.3	▲21.4	▲18.5	▲22.2	▲22.2	▲22.2	▲40.7
製造	▲66.7	▲64.5	▲44.9	▲38.7	▲45.2	▲45.2	▲45.2
卸売	▲32.0	▲32.0	▲25.0	▲25.9	▲35.7	▲35.7	▲42.9
小売	▲57.9	▲35.0	▲57.9	▲61.1	▲58.8	▲58.8	▲58.8
サービス	▲80.8	▲71.4	▲70.8	▲73.7	▲78.3	▲78.3	▲65.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・一般個人住宅需要の低迷が顕在化（一部報道では堅調との統計もあるが）してきている。低廉安価な個人住宅需要は堅調とされるが、中・高級注文住宅については契約の延長がみられる。「働き方改革」対応については業界全体での取り組みが必要（発注者、協力業者等）。特に技術者、IT 技術者の人材不足が顕著とされている。IT 技術者については内製化も考慮。（総合工事） ・民間建築需要はポストコロナで確実に減少すると思われる。公共の下支えも期待できず、来期以降の完工高は低迷していく予定。（総合工事） ・見積り依頼は多いが予定受注の見込みが立たない。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・大阪等緊急事態宣言が延長され、発注量が少ない状況が続いている。好転材料がほとんどないが、売上の減少幅が少なくなるような経営をしていくのみ。（食料品） ・緊急事態宣言発令により関東方面への出荷が対前年比 90%減少。（食料品） ・新型コロナウイルスの観光への影響が尚続いており、例年発注される案件が見送られている。（印刷・出版） ・受注量の減少に加え、受注単価も下落し、採算は悪化。先行き見通しに好材料がなく、厳しい状況が続きそう。（家具・木材） ・様子見の案件が多い。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に寒波に見舞われたことにより前年よりも受注が多かったことや、衛生用品の需要が上がったこともあり、前年同月よりも売上・利益ともに盛り上がった。しかし、今後はコロナ対策予算の増発の影響で公共事業などの予算が目減りするのではとの不安もある。（繊維・衣服等） ・取扱商品を増やす予定。活路を求めたいと思う。（飲食料品） ・灯油の仕入れ価格はここ数ヶ月、少しずつ上昇しており、2 月から販売単価の引上げを実施。2 月も仕入れ値が上昇傾向あり更なる値上げが必要かと思われる。（その他） ・昨年から着工している大型工事物件は資材単価が上昇しているが販売単価を上げることができないため採算悪化。民間工事物件が減少（コロナの影響）の可能性が高いため今期は売上が厳しくなる見込み。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスによる飲食店への売上の落ち込みが続いており、まだ回復の兆しが見えない。（食料品） ・シーズン（季節）の変わり目のため毎年来店客が少ないが、今年は新型コロナウイルスによる影響によりまったく来店客がない。今後の店舗運営の方向性（売上確保のため）を考えなければならないと思われる。（衣服見回品） ・商品の遅延などが発生しており、営業活動に支障が出ている。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響によりホテルのリネンが減少し、当社の売上もホテル関係の旅行者の減少により 6 割位少なくなっている。昨年の 10 月頃より減少が続き大変な状況が続いている。（理美容・クリーニング） ・コロナウイルスの影響を受けてから 1 年、厳しい状況が続いている。プレミアム商品券も今月末に終了になるため今後は更に売上の減少が心配。（飲食） ・コロナの影響が大幅減収という形で顕在化して 1 年が経過した。今後は最悪だった前年よりは数字が良くなる見込み。それを売上前年比増加と喜んでいる場合ではなく、これからの生活様式に向けた事業展開を模索中。（運送） ・コロナの影響下、人の移動が鈍く特に札幌方面に向けての都市間バス運収は対前年比 60%減であり、全事業においても 35%減となっている。この先も当然好転は見込まず更に厳しい状況になってきている。（運送） ・コロナ禍の中、インバウンド需要の減少に伴い、リゾート地や別荘地の開発事業が計画の延期や中止に追い込まれている。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI10.6 ポイント改善、採算 DI3.3 ポイント改善、仕入単価 DI11.6 ポイント悪化、販売単価 DI13.4 ポイント悪化、資金 DI7.9 ポイント改善、従業員 DI6.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態は横ばい。業種別では、総合工事 15 ポイント悪化、設備・その他 30 ポイント、建築業 8 ポイント改善となった。技術職の従業員不足、高齢化との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI11.6 ポイント悪化、採算 DI8.1 ポイント改善、仕入単価 DI7.1 ポイント悪化、販売単価 DI7.0 ポイント悪化、資金 DI3.6 ポイント悪化、従業員 DI3.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.8 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 7 ポイント改善、印刷・出版横ばい、食料品、家具・木材 14 ポイント悪化となった。引き続きコロナの影響があるが、回復基調にあると感じるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI10.7 ポイント改善、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI17.8 ポイント悪化、販売単価 DI10.7 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI14.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.6 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント、その他 10 ポイント改善、食料品 5 ポイント、機械鋼材 33 ポイント悪化となった。農業業界はコロナの影響は少ないと言われているが、やはり今年の売り上げは減少する見込みとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI10.7 ポイント改善、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI17.8 ポイント悪化、販売単価 DI10.7 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI14.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.6 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント、その他 10 ポイント改善、食料品 5 ポイント、機械鋼材 33 ポイント悪化となった。農業業界はコロナの影響は少ないと言われているが、やはり今年の売り上げは減少する見込みとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI14.1 ポイント悪化、採算 DI6.0 ポイント悪化、仕入単価 DI11.9 ポイント悪化、販売単価 DI11.1 ポイント改善、資金 DI20.2 ポイント悪化、従業員 DI4.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.7 ポイント悪化となった。業種別では、飲食 20 ポイント改善、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、運送横ばい、整備業 20 ポイント悪化となった。航空便の運休に伴い、輸送費の上昇による収益性が悪化しているとの声も寄せられている。</p>